

# 垣間見たブータン王国

町田市 藤巻 幸雄（東本町一丁目出身）

昭和五十九年に日本・ブータン友好協会に入った頃、ブータンについて会員間で交わされる会話は、秘境の香りをたっぷり残していた。

入会の動機は全くの物好きである。

現在のブータン王国は、秘境ではなく幸せな国づくりを進めている不思議な魅力を持つ国である。

昭和四十六年国連加盟、六十一年日本との外交関係樹立、グローバル化の名のもと押し寄せる世界のうねりに耐えている国でもある。

ヒマラヤ山麓にあったアッサム、シッキム等小王国が次々隣接国に吸収される中であって、ブータンを統一した現王家が「ブータン王国」として一九〇七年に建国、国王五代を数えている。

ブータン王国は、ネパールの東、インドの北に位置する九州ほどの面積にチベット系八割の人口約七〇万人、チベット仏教を国教とする立憲君主国である。

昨年の平成二十三年には、十月の五代国王の御成婚、十一月に国賓としての来日、ご夫妻の爽やか印象等マスコミ登場は極めて多く、加えて新しい国家目標としてのGNH（国民総幸福）を発信する国として世界的に注目されている。

友好協会に入ってから、最初の訪問が叶ったのは、平成二十年十一月の現国王即位の国民参加行事見学と地方のお祭り見物であった。

行事の一つは、即位した現五代国王や父親である先代国王をはじめ大剣

を右腰（右である）に吊るした政府高官等と一般人が幾重にも輪になって延々と続く踊り、観覧席の観衆と一体となつての熱気は経験したことのない雰囲気であった。（写真①）



写真① みんな輪になって踊ろう

地方でのお祭は、真つ青な空の下で、

大伽藍を背景に仮面をかぶつての激しい踊りがメインである。踊りの区切りには正装した男女の歌の掛け合いがあり、日本の万葉時代の歌垣の一端を想像させて興味深かったし、観客である大勢の村人との盛り上りは終日いても飽きなかった。（写真②③）



写真② 仮面舞踊



写真③ 村の娘さん達

二回目は、二十三年八月の当協会の設立三〇周年記念訪問であり、ご成婚間近い国王拜謁をメインに物故会員の法要、図書館への本の寄贈、学校訪問、古刹拝観等であった。

国王拜謁は、協会役員若干名（私は、万年会計監事であったことが幸いし、拝謁の栄を賜った）が王宮に上がり一時間ほどお茶をいただいた。（写真④）



写真④ 王様と（向かって左端が藤巻さん）

真っ暗であったが、目が慣れるにしたがってパターランプのほのかな明か

りて地を這うような読経をする赤い衣の大勢の僧侶、慈悲の仏、怒れる仏たちが浮き出て、揺れる世界は得も言われぬ感動であった。

チベット仏教には活仏がおられる。首都郊外の僧院拝観時に全くの偶然から十六歳の若き活仏を拝む機会に恵まれ、頭も丁寧に撫でていただいた。これ以上「ぼけず」に往生できることを期待している。（活仏へ案内してくれた僧侶 写真⑤）



写真⑤ 僧侶の案内で生き仏と

楽しみに訪問した学校は、標高二千八百メートル余の蕎麦の花咲く美しい村「ハ（Haa）」の生徒六百名の学校であった。

日本に留学したことのある校長のからいで全生徒が整列して文殊菩薩を讃えるお経を読む朝礼参観、授業中の教室出入り、休み時間の生徒との会話も許された。（写真⑥）



写真⑥・朝礼

生徒の行儀の良さと清潔さには感心し、英語で行われている面積比較の算

数の授業（校内の掲示、授業は全て英語）には圧倒された。

一方、お伽噺のようなこの村にもインド軍が駐留しており、射撃訓練の音がする現実がある。

ブータン王国が発信し続けている

GNHは、一九七〇年代に先代国王によって提唱された。

二〇〇八年に制定されたブータン王国憲法第九条に「GNH（国民総幸福）の追求」として明文化され、第五条に国土の最低六〇％は森林を確保を義務付けている。（なお、第二条には国王は六十五歳で退位、リコール制度も定めている）

ブータン王国のGNHへの道は現在四つの柱を立てている。

すなわち

- ① 健全な経済発展
- ② 環境保全
- ③ 文化の保全
- ④ 良い統治

である。

例えば文化の保全の中には民族衣装着用の義務から始まり公務員等ブータンで就職する者は全て約一週間の伝統・文化・宗教・儀礼等の実践的教育の修了書を必要とし、定期的に行われる国民へのアンケートには「瞑想の頻

度」「動植物の知識」「祭りの踊りの知識」等の項目があると漏れ聞いている。またブータン王国への帰化条件に一般的な事柄に加え「文化、習慣、伝統及び歴史について、正しい知識を有する」がある。

電気の全戸への供給、交通網をはじめ必要とするインフラ整備は膨大で経済成長は必要である。

ブータン王国のGNHは、GDPに對比するものではなくチベット仏教の基盤の上に伝統・文化・自然を守ることにより心の平安を重視する経済成長理念であると思う。

ブータン王国は、地球上の人口四割弱を占める中国とインドに挟まれた人口七〇万人の国で教育・医療無償の国家予算約三七〇億円、私の住む町田市は人口四十二万人、健保・介護を含めた年間予算は約二千百億円である。

今後のブータンには、経済成長は絶対必要であり国民総幸福を追求する環境づくりとどう調和させるの難しさは誰もが指摘している。

私は、真摯に調和を目指すブータン王国を信じており、GNHの追求とそれの世界への発信こそが王国の存在を保つ方途であると思っている。

なお、ささやかなホームページ <http://mahoujutan.web.fc2.com/> にブータン写真を若干載せておありますのでご覧下さい。

ブータン王国の首都ティンブーの写真

(藤巻さんのホームページより)

